

田澤義鋪と下村湖人

日本国民にあるべき人としての姿を示した



青年団の父と呼ばれる田澤義鋪は、その業績から、昭和11年に組閣された内閣に、内務大臣として入閣を求められたほどでした。田澤と彼を慕った下村湖人はどんな人だったのでしょうか。

調べてみよう

現在、佐賀県内にある青年団では、どんな活動をしているのだろうか？



(日本青年館提供)

初代日本青年館 青年団員が1人1円(現在の約2500円に相当)ずつ出し合い、補助も

寄付も受けず、1925(大正14)年、神宮外苑に開館しました。

田澤がのこした3つの業績—青年教育、明るい選挙運動、労使協調運動

田澤義鋪たざわよしはるは、1885(明治18)年、現在の鹿島市高津原に生まれました。田澤は、大学卒業前に朝鮮と中国東北部を旅しました。そのとき田澤が目にしたのは、日露戦争に勝利した日本人の傲慢ごうまんさと中国人に対す

る非人道的な扱いでした。下村湖人著『この人を見よ』には、このときの田澤はひたすらに恥じ、おそれ、悲しみ、憤いきどおったと書かれています。そして、今何よりも大事なことは日本を「道義国家」にすることだと考え、そのことに生涯せいかを捧げたのでした。

田澤は三つの業績をのこしました。一つ目は、**青年教育**です。1914(大正3)年、静岡県での郡長時代、10~30代の働く青年たちと宿泊研修を行



(一般財団法人田澤記念館提供)

田澤 義鋪

1885(明治18)年~1944(昭和19)年



(下村湖人生家保存会提供)

下村 湖人

1884(明治17)年~1955(昭和30)年

い、寝食を共にして、憲法の意義や人としての生き方などの講義を行いました。また、1925(大正14)年、日本青年館の開館式で「道の国日本の完成」と題して記念講演を行いました。

田澤は、青年団^{※1}の本質は郷土愛だと考え、「錦を着て郷土に帰ることを願う前に、先ず郷土を錦とすることを願え」(『この人を見よ』より)と、あらゆる機会に訴え続けました。田澤の青年教育は、のちに昭和天皇が青年団についての説明を求めるほどでした。

※1 地域活動や社会活動を行う学生以外の10～30代の若者の団体。

二つ目は、**明るい選挙運動**です。当時はお金で票を集めるような選挙もありました。そこで、田澤は総選挙に出馬し、不要な資金や不正票のない選挙を行動で示しました。残念ながら^{きんさ}僅差で落選しましたが、手応えを感じ、その後も^{せんきょしゅくせいうんどう}明るい選挙運動(選挙粛正運動)を続けたのです。

三つ目は、**労使協調運動**です。労使協調とは、労働者と使用者が互いの目的のために協調し合うことです。1918(大正7)年ころ、労働争議が^{ひん}頻りに起きました。この状況を打開するために、実業界の^{じゅうちん}重鎮である

COLUMN

宿泊研修の内容

1914(大正3)年、静岡市の蓮永寺で1週間の宿泊研修を行いました。日中は講義、夜は課外講話が行われ、講義は座学のほか、県庁での実地見学も行われました。田澤は郡長でありながら、青年たちと同じ食事を食べ、同じように便所掃除も行いました。

COLUMN

青年たちが
明治神宮を造った

田澤は30歳のときに明治神宮造営局総務課長となりました。明治神宮の造営工事は1915(大正4)年から1920(大正9)年にかけて行われましたが、期間の中ごろから物価の大暴騰・労力不足に見舞われました。そこで田澤は地方の青年たちに造営工事の協力を仰ぎ、併せてこれを教育の機会としました。最初は難しいと思われていましたが、青年たちの働きぶりは政府を驚かせるほどでした。

沢栄一らは、財団法人協調会を作りました。田澤はその責任者に任命され、1921(大正10)年に、労働者や使用者を対象として労務者講習会を開催しました。その際、田澤は、何度も「我々は資本家であり、労働者であり、官吏であり、教員であり、党员である前に、立場を超えてまず人でなければならない」と訴え続けました。

田澤は、第二次世界大戦が終結する前に亡くなりますが、戦争中も平和主義を訴え続けました。

「平凡道を非凡に歩め」という田澤がすすめた言葉があります。これは、生活の中で毎日必要な当たり前のことを、当たり前ではなく人一倍念入りに行うという意味です。田澤の生き方は、人として当たり前の姿を、信念をもって貫いたものでした。

田澤の意思を受け継いだ、下村湖人

^{しもむら こじん}**下村湖人**は、1884(明治17)年、現在の神崎市千代田町に生まれました。熊本の旧制第五高等学校で田澤と出会い、信頼し尊敬する友として、終生変わらぬ友情を深めました。



浴恩館 現在は改修されましたが、東京都小金井市の歴史や生活に関する資料が展示されていました。(小金井市文化財センター提供)

下村は大学卒業後、母校旧制佐賀中学校の英語教師となりました。その後は、旧制の鹿島中、唐津中、台中第一中、台北高校の校長などを務めます。

また、勤務校や他校から依頼を受けて、校歌も作詞しました。

下村は、1931(昭和6)年、当時勤めていた台北高校の校長を辞任し、田澤が東京都小金井に開設した青年団講習所(浴恩館)所長となり、青年教育に従事します。

下村は、それぞれが個性を大事にしながらかることを望み、それには、各自が自分で生きる工夫をすることが大切だと信じていました。一見放任主義に見えるこの指導方法は、田澤の指導方法でもありました。自分で自分を律することができる者だけが自由を獲得できる、という厳しいものでした。

下村は、青年教育の傍ら、講演や文筆活動も行います。青年団講習所での実践記録を物語化したのが、下村の名作『次郎物語』の第五部です。

『次郎物語』は、幼少期に皇子に出された本田次郎の成長を描いた作品で、戦前と戦後に計4回映画化され、NHKの連続テレビドラマにもなりま

下村湖人が作詞した主な校歌

| |
|---|
| 佐賀県立唐津東高等学校校歌 天日輝き (歌い出し) 天日かがやき 大地は匂い 潮風平和を 奏づる郷に |
| 唐津市立第一中学校校歌 (歌い出し) 玄海の波 照りかえす あしたの光 身にあびて |
| 鹿島市立鹿島小学校校歌 われらのいのち (歌い出し) 桜咲く 鹿島の里に 多良が嶺を はるかに仰ぎ |

COLUMN

下村が田澤を慕うようになったエピソード

第五高等学校時代、寮に大食い(お)の学生がいて、いつもお櫃を占領していました。それを嫌がった学生たちが彼に仕返しをしようと企んでいたとき、たまたまそれを聞いていた田澤が「自分たちが不愉快に思ったことを、今度は自分たちがするのかね」と何気ない顔で言いました。その様子を見ていたのが下村です。下村は田澤のその言葉で、心から田澤に感心したそうです。

した。下村自身や田澤をモデルとしている人物も登場します。この小説からは、二人の生き方をより実感することができます。

田澤と下村の足跡からは、人として当たり前のことを大切に生きていく姿勢を学ぶことができます。

市町の取組

【下村湖人生誕祭】

■神崎市
毎年湖人が生誕した10月3日に、児童生徒が制作した読書感想文や湖人生家のスケッチに対し表彰式を開催しています。



調べて書いてみよう!

下村湖人の作詞した他の校歌を調べて書いてみましょう。



読んでみよう! 下村湖人の著作を読んでみよう!

- 『次郎物語』 新潮社刊
- 『青年の思索のために』 PHP研究所刊
- 『論語物語』 講談社学術文庫刊
- 『この人を見よ 青年団の父 田澤義鋪』 田澤義鋪顕彰会刊



出かけてみよう!



田澤記念館 (鹿島市高津原城内 434)

田澤義鋪の生家跡にあります。研修や啓発活動、資料の展示などを行っています。
TEL 0954-63-1622 / 休館日 不定休 / 開館 平日9:30~16:30、土日祝 10:00~16:00
(一般財団法人田澤記念館提供)



下村湖人生家 (神崎市千代田町崎村 895)

『次郎物語』の原稿をはじめ、湖人のゆかりの品々の展示がなされ「白鳥(ろか)い 蘆花に入る」の石碑もあります。
TEL 0952-44-5167 / 休館日 月曜日、年末年始 / 開館 10:00~17:00(12~2月は、16:30まで)
(佐賀県観光連盟提供)

検索してみよう!

田澤青年団

湖人 校歌

日本青年館

